

希少植物等保全対策検討委員会（第 7 回）

日 時：令和 8 年 2 月 12 日（木）
10 時 00 分～12 時 00 分

場 所：津野町役場本庁舎
（高岡郡津野町永野 225 番地 1）

次 第

1 開会

2 議事

（1）希少植物等の保全に向けた取組等について

（2）その他

3 閉会

植生モニタリング調査、移入種除去の状況について

1 概要

1.1 対象エリア

カルスト自然探勝路沿い及び周辺草原（図1.1）

1.2 内容

1) 植生モニタリング調査

自然探勝路沿いに設置する植生再生試験区(4地点)において植生回復調査を実施

2) 移入種除去

自然探勝路を踏査し、路傍で確認された移入種※を記録するとともに除去

※探勝路周辺において生育が確認されず、当該区域に持ち込まれたと推察される種を移入種（外来種・在来種は不問）とした。

1.3 実施日

植生モニタリング調査

：2025/5/20、6/6、7/1、8/1、9/1、9/30、11/4

移入種除去：2025/5/20、6/18、7/2、7/30、8/29、10/1、11/5

1.4 まとめ

1) 植生モニタリング調査

◆播種した6種のうち、リンドウ以外の5種は発芽が確認され、発芽した種のうちハバヤマボクチ以外の4種では開花結実が確認された。

◆試験区によって播種した種の植被率や高さに違いが見られ、特に地点Aは発芽した4種が同斜面に位置する地点Bと比べて少なく、植被率と高さも地点Bと比べて低い傾向であった。

◆工事で発生した石灰岩を除去した地点Cは最盛期の植被率が95%となり、構成種は異なるものの外観は周辺と大きな差が見られない状況となった。

◆引き続き、播種した個体の定着状況や植生の回復状況等を確認するため、地点A・B・Cにおいてモニタリングを継続する予定。

※植生の回復が著しい地点Eはモニタリング終了とする（ササの繁茂により播種個体の追跡が困難）

2) 移入種除去

◆12地点で4種計22個体（昨年度：22地点で5種計111個体）の移入種を確認し、駆除を行った。

◆昨年度と比較して、地点数は半減、個体数は80%減となった。

◆新たにヒメムカシヨモギが確認されるなど、利用者（ペットを含む）に付着して持ち込まれる移入種の増加や、地下部が残存している可能性があるセイタカアワダチソウなどの多年草の生育が懸念される。

◆引き続き、移入種の抑制や侵入状況の確認のため、移入種除去を継続する予定。

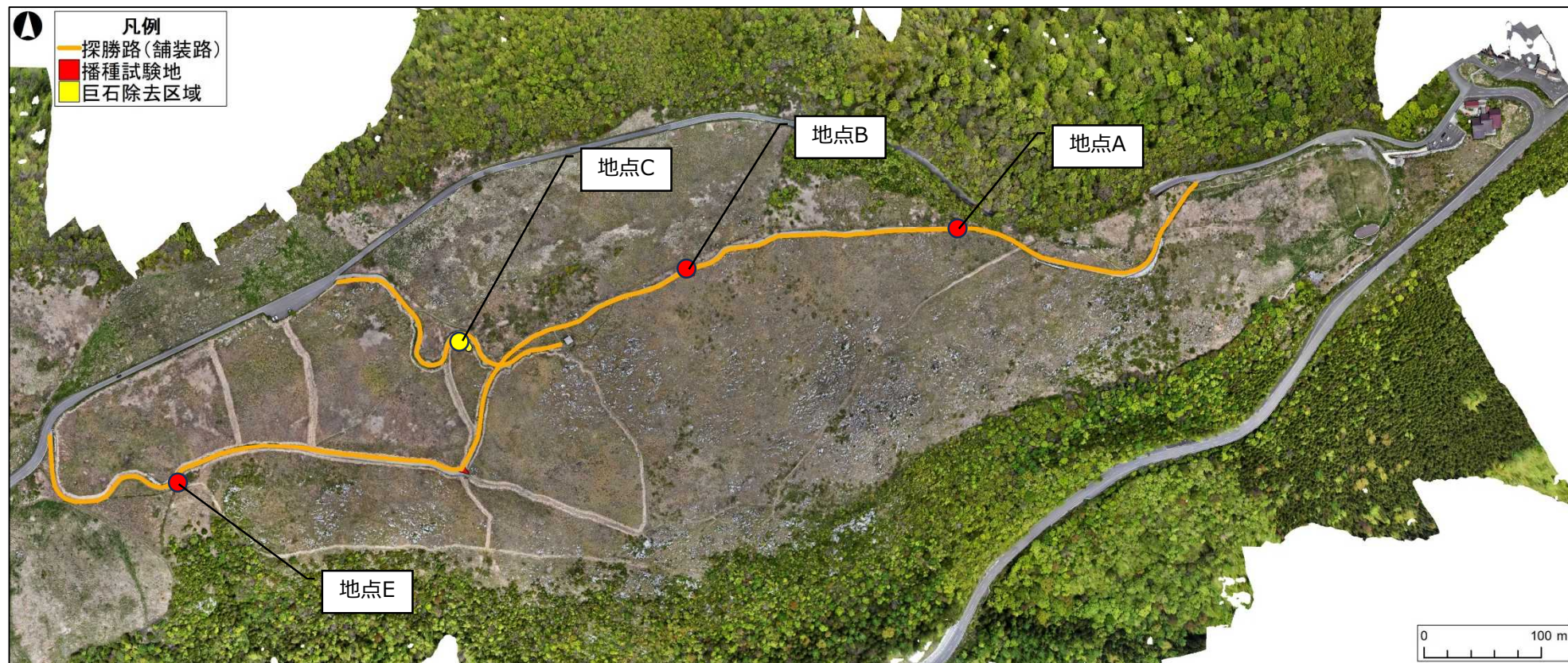


図1.1 調査対象区域と調査試験区

2 詳細

2.1 植生モニタリング調査

◆6種を播種した植生再生試験区（図1.1）のうち、上記4地点において植生回復調査を実施

◆発芽が確認された種については下の写真のとおり（6種のうち5種）



キンミズヒキ



ハバヤマボクチ



ニセツクシアザミ



ヒメヒゴタイ



シロヨメナ

2.1 植生モニタリング調査

1) 播種地点（地点A・B・E）

- ◆播種区の植被率は20～25%、非播種区は25～40%で推移
- ◆播種区では昨年度と同様に4種が確認された
- ◆植被率が最も高かった種はヒメヒゴタイであった

地点A



- ◆播種区の植被率は40～55%、非播種区では25～40%で推移
- ◆播種区では昨年度同様に5種が確認された
- ◆植被率が最も高かった種はニセツクシアザミであった
- ◆播種した種の植被率や最大高が地点Aと比較して高い

地点B



- ◆植被率は播種区で7月以降、非播種区でも8月以降は90%以上で推移
- ◆播種区では昨年度同様に5種が確認された
- ◆植被率が最も高かった種はニセツクシアザミとヒメヒゴタイであった
- ◆地点全体でヨモギ・ミヤコザサが旺盛に繁茂していた

地点E



2) 非播種地点（地点C・石灰岩の巨石を除去した区域）

- ◆本年度の調査で計41種（昨年度39種）の植物種が確認された
- ◆夏季にかけて植生が発達し、碎石部分の露出が減少している
- ◆ヨモギ、イタドリ、ススキの成長が著しく、8月時点で草丈はいずれも1mを超え、9月時点でススキの大きい個体は2mを超えていた
- ◆主にヨモギ、ススキ、イタドリ、ニセツクシアザミなど高茎の多年草が個体数が多く、生育密度も高い
- ◆植被率は5月調査の時点で60%と昨年度に比べて高い状態で、8月1日調査以降は95%以上で推移した（図2.1）

地点C



↑ 地点Cの植生状況（空中写真 / 上：2024年、下：2025年）
↓ " （近景写真 / 上：2024年、下：2025年）

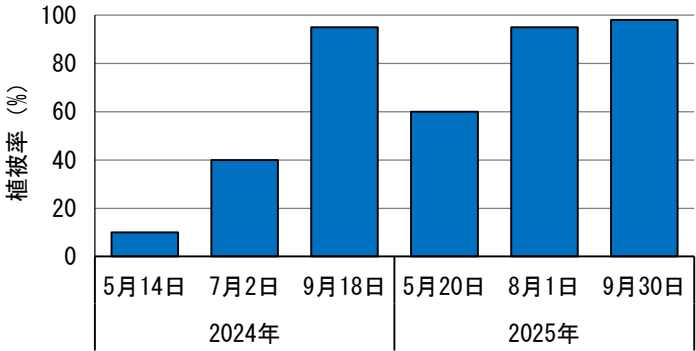


図2.1 地点Cにおける植被率の推移

2.2 移入種除去

1) 移入種の確認状況

- ◆探勝路沿いの碎石部分において、ヒメオドリコソウ、ミチタネツケバナ、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギの4種が確認され、駆除を行った（図2.2、図2.4）
- ◆ミチタネツケバナとセイタカアワダチソウは昨年度に比べて個体数が減少したが、ヒメオドリコソウは増加した（図2.3）



移入種（セイタカアワダチソウ）の駆除
（左：駆除前 右：駆除後）



ヒメオドリコソウ



ミチタネツケバナ



セイタカアワダチソウ



ヒメムカシヨモギ

図2.2 駆除した種

種名	地点数	個体数
ヒメオドリコソウ	3	6
ミチタネツケバナ	3	4
セイタカアワダチソウ	5	11
ヒメムカシヨモギ	1	1
4種	12	22

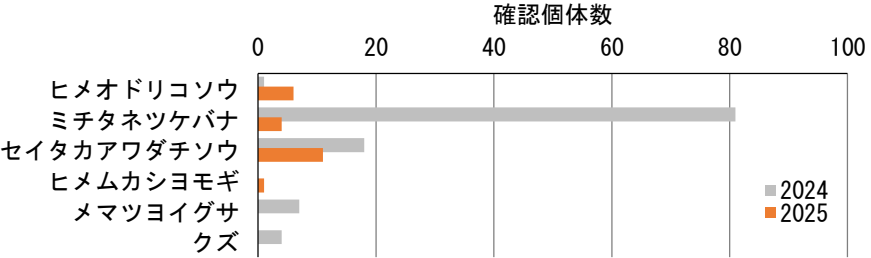


図2.3 確認・駆除した移入種数の推移※

※2024年度に移入種としたメマツヨイグサとクズは、2025年度は探勝路沿いでは確認されていない（周辺の路傍又は周辺の草原内で確認されている）



図2.4 自然探勝路沿いの移入種確認地点

安全対策等について（階段工の設置）

概要

- ・ 階段工1箇所（バリアフリー道の旧道との接合部）

現地打ち合わせの実施（設置場所、構造など）

- ・ R7.12.23 地元代表：谷脇委員、馬場委員、津野町大崎課長、観光ガイド熊田氏
- ・ 杭について、鉄筋ではなく木杭を使用して景観配慮をとの意見をいただき採用している。

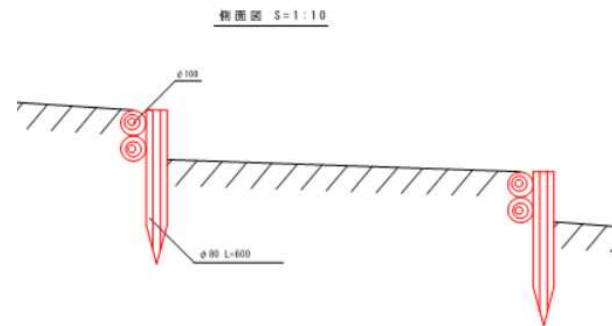
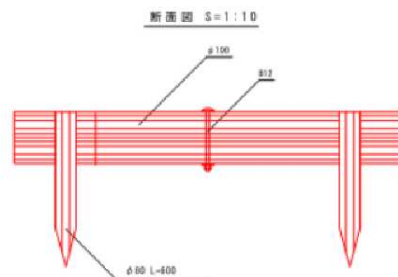
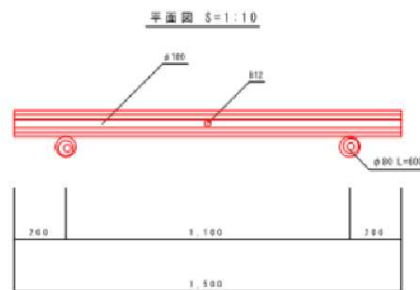
今後の予定

- ・ R 8. 3 月末 施工完了予定

■現地確認の様子



■図面



植生図について

1.1 植生詳細調査

- ◆自然探勝路周辺の草原域の57地点で植生調査を実施した（図1.1、表1.1）
- ◆植生調査地点の優占種は、ミヤコザサ、ススキ・ミヤコザサ、ススキ、その他の4タイプであった（表1.1）
- ◆各地点のミヤコザサの最大高と植被率、確認種数の関係をみると、ミヤコザサの最大高が80cm以上かつ植被率が80%以上の地点では確認種数が少ない傾向が確認された（図1.2）
- ◆四国カルストの草原で見られる象徴的な10種を選定し、いずれかの種が確認された地点を整理した。その結果、最大高が80cm未満のミヤコザサ、ススキ・ミヤコザサが優占する地点では80%以上の地点で確認されており、ススキが優占する地点では45%で確認された（図1.3）
- ◆ミヤコザサが高く、高密度で生育しているところは種の多様性が低く、指標種の生育適地となっていないことが示唆された



植生調査実施状況

表1.1 植生調査地点の概要

優占種	地点数
ミヤコザサ	34
ススキ・ミヤコザサ	7
ススキ	11
その他※	5
計	57

※メヒシバ、ヨモギ、ヒロハウシノケグサ
オオアワガエリ、オオスズメノカタビラ
がそれぞれ優占する地点が各1地点

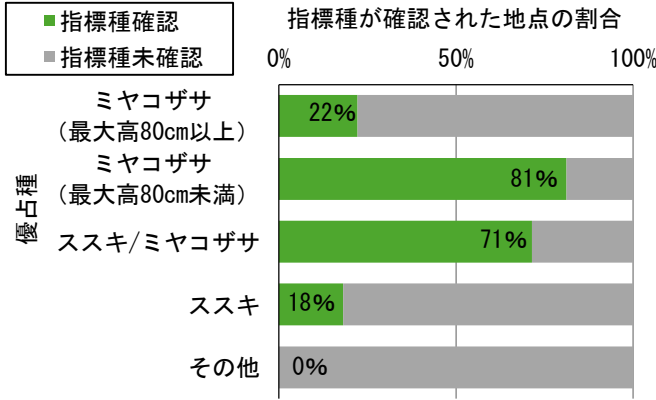
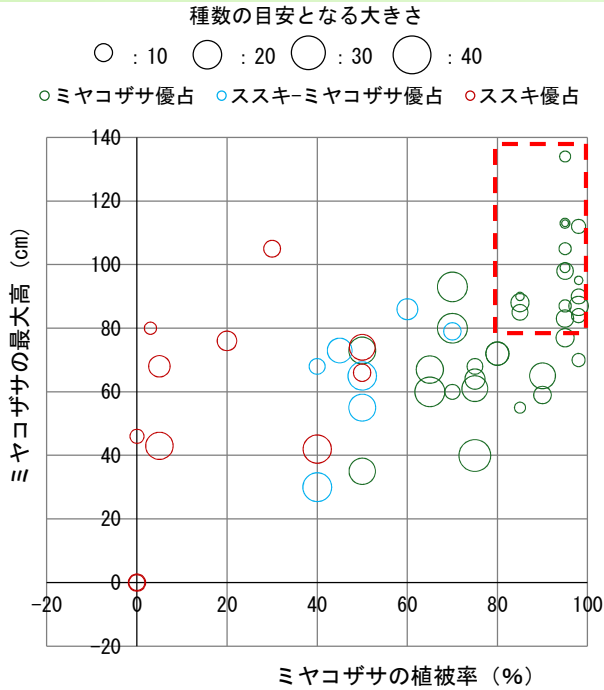


図1.3 植生調査地点において指標種※が確認された地点
グラフ上の割合は各優占種が優占する地点数に対する
指標種が確認された地点の割合

※指標種は四国カルストの草原で見られる象徴的な以下の10種を選定
ヒメユリ、ササユリ、カキラン、トンボソウ、
サクラスミレ、アカネスミレ、オオナンバンギセル、
ハバヤマボクチ、ヒメヒゴタイ、ニセツクシアザミ



図1.1 自然探勝路沿いの植生調査地点と指標種の確認状況

1.2 植生図作成

- ◆ UAVで撮影した空中写真から自然探勝路沿いの草原域の概略植生区分図を作成した（図1.4）
- ◆ 前節の植生詳細調査結果、除草や火入れ（図1.5、図1.6）の有無、地形等を踏まえて植生区分を細分化し、詳細植生区分図（図1.7）を作成した。



図1.4 四国カルスト自然探勝路沿いの草原域の概略植生区分図

- ◆津野町による近年の火入れ履歴
 - 2008（H20）年度 2009年3月29日
 - 2012（H24）年度 2013年3月31日
 - 2016（H28）年度 2016年4月 3日
 - 2019（H31）年度 2020年3月22日
- ◆火入れ範囲の境界は、主に県道と旧遊歩道となっている（図1.5）
- ◆対象となる草原では、2008年以降、4回の火入れが行われており、火入れの回数は場所により1～4回となっている（図1.6）
- ◆対象となる草原の中央付近は、2008年度以降で火入れの回数が最も多く（4回）、直近の火入れから約6年が経過している（図1.6）
- ◆対象範囲の西側は直近の火入れから約10年、南端の一部は約13年が経過している

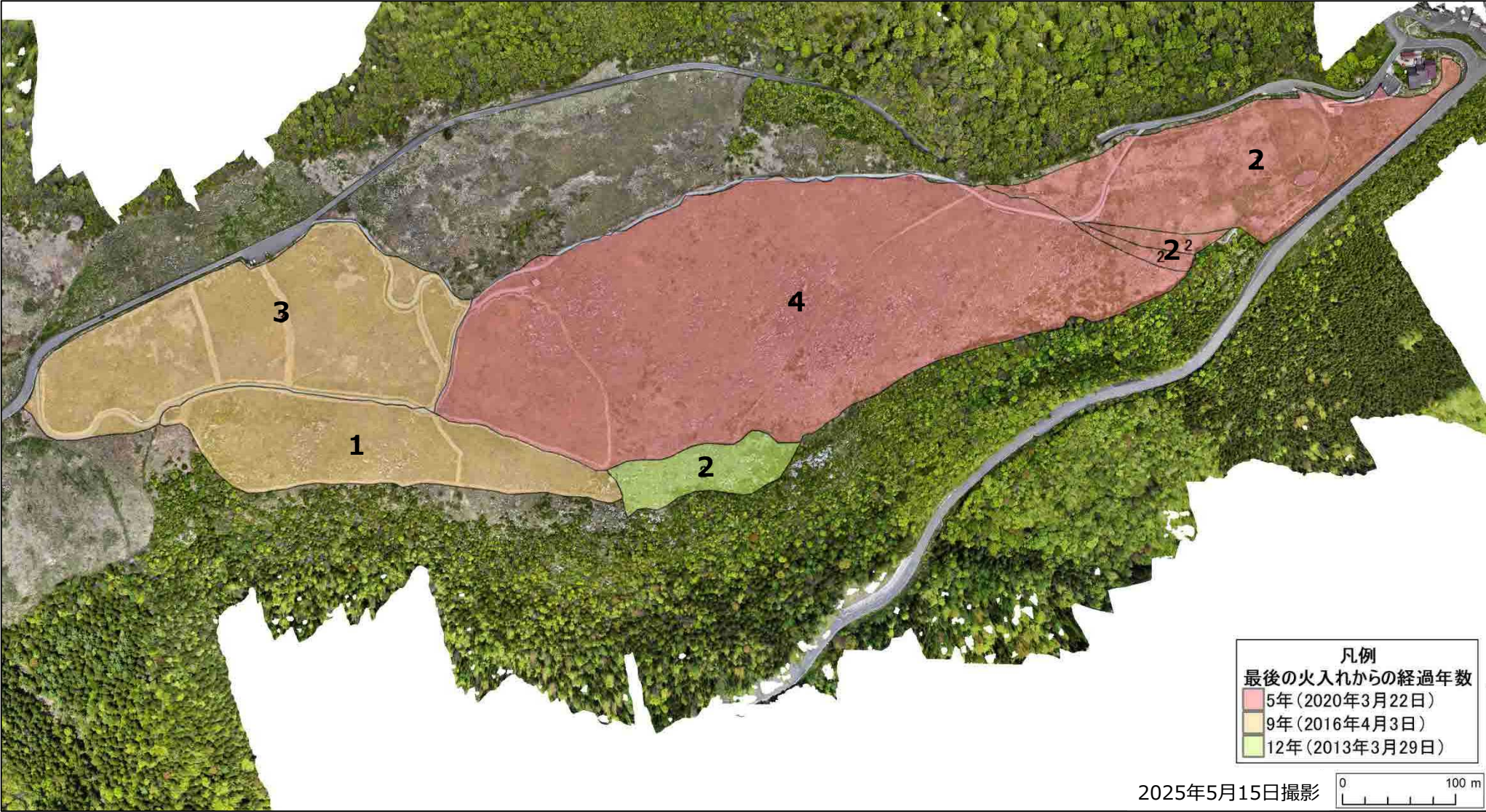


図1.6 最後の火入れからの経過年数と火入れ回数

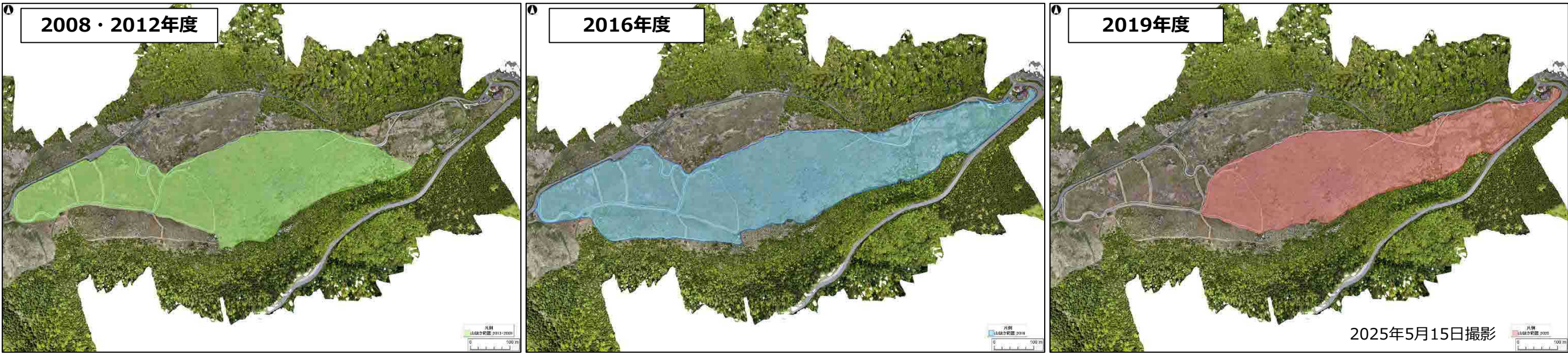


図1.5 四国カルストにおける火入れの範囲（実施年度別）

- ◆ミヤコザサ草原は植生詳細調査結果、除草や火入れの有無等を踏まえて、以下の5分類に区分された（図1.7）
 - (1) 最大高が80cm未満のミヤコザサ草原（ススキ-ミヤコザサ優占含む）
 - (2) 最大高が80cm以上のミヤコザサ草原
 - (3) 火入れ等のために草刈りが行われているミヤコザサ草原
 - (4) 工事等にもとない改変されたミヤコザサ草原
 - (5) 低木が多く混生しているミヤコザサ草原
- ◆指標種は、「草刈りが行われたミヤコザサ草原」や「最大高が80cm未満のミヤコザサ草原」、「ススキ草原」で確認されていることが多い
- ◆また、指標種は、「草刈りが行われたミヤコザサ草原」や直近で火入れが行われた範囲（範囲の中央付近）で確認されていることが多く、草刈りや火入れが指標種の生育に関与していることが示唆された

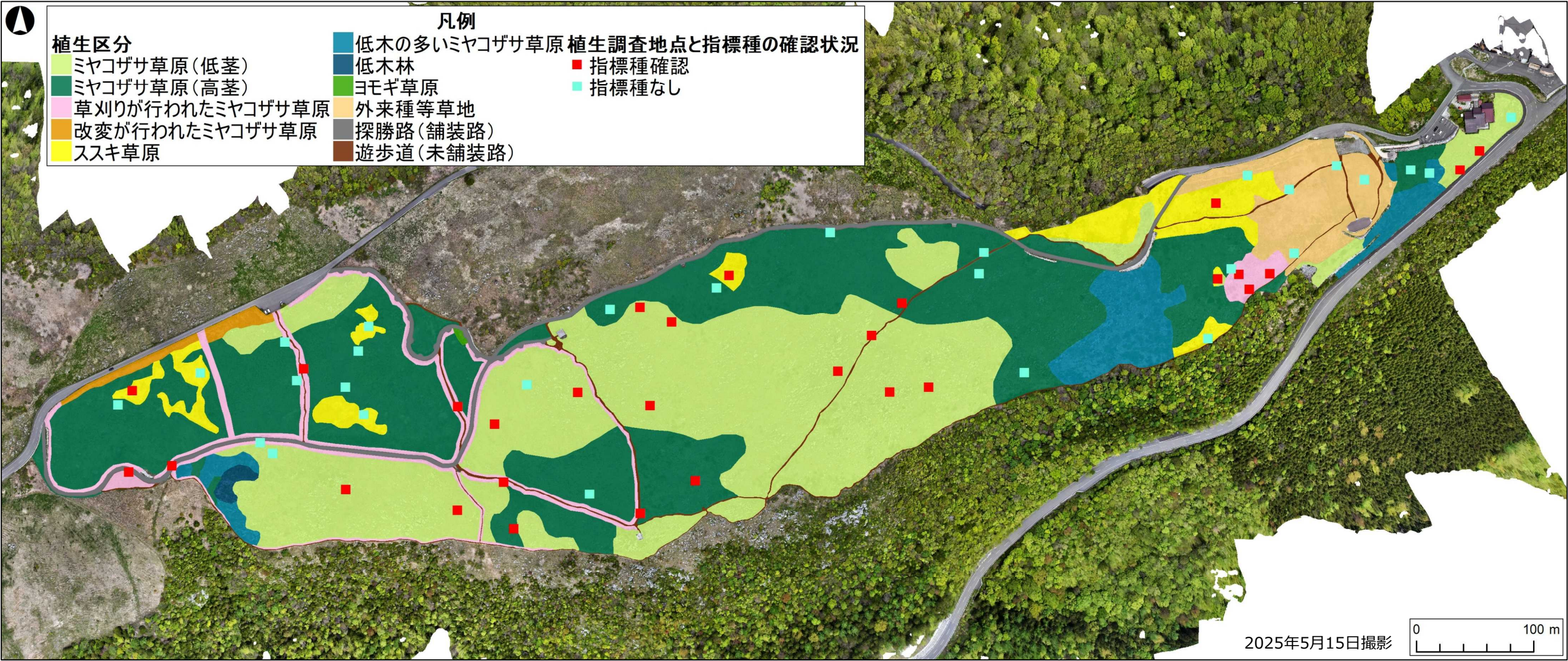


図1.7 自然探勝路沿いの草原域の詳細植生区分図と指標種の確認状況

維持管理草刈りの試行について

実施概要

- ・ 日 時：令和7年11月20日（木）10:00から12:00まで
- ・ 作業内容：刈り取った草の掻き出し（草刈りは一部を除き当日までに津野町が実施。）
- ・ 作業場所：ドリーネ付近2か所（400㎡、50㎡）
- ・ 参加者：ボランティア3名、津野町、自然共生課（計約15名）

■位置図



■作業前（左は草刈り後掻き出し前、右は草刈り前）



■作業中の様子



■作業後



希少植物保全作業ボランティアの募集について

四国カルスト草原で希少植物保全のための作業を一緒に行っていただけるボランティアを募集します。本作業は草原内の希少植物保全策を検討するため、高知県と津野町が協力して試行実施するものです。

(1) 作業内容

希少植物の生育環境を守るために、刈り取った草の掻き出し作業を行います。

(2) 開催日時及び当日の流れ

実施日: 2025年11月20日(木) 10:00 ~

(予備日: 2025年11月21日(金) 10:00 ~)

※現地集合現地解散(交通費は自己負担でお願いいたします。)、小雨決行
予備日への変更や中止の場合は前日中に連絡します



- ・10:00 集合
- ・10:15~ 作業開始
- ・12:00~ 昼休憩 (参加者の方へお弁当をお配りします)
- ・13:00~ 作業再開
- ・15:00 作業終了



※当日の作業進捗により終了時間が前後することがあります。
午前だけの参加も歓迎です。

(3) 集合場所

探勝路入口付近駐車場(裏面地図参照)

(4) 持ち物

- ・草の掻き出し作業ができる服装
- ・飲み物
- ・雨具、防寒具(現地は寒いです)

※作業に必要な道具はこちらで準備いたします。

(レーキなど草掻き用具をお持ちの方は持ち込んでいただいてもかまいません)



(5) 申込方法

下記申込先までメールまたは電話にてお申し込みください。

申し込みの際、1) ~ 5) の内容をお知らせ願います。連絡及び傷害保険への加入のために使用します。

- 1) 氏名
- 2) 住所
- 3) 電話番号またはメールアドレス
- 4) 生年月日
- 5) 性別

申込先

高知県林業振興環境部 自然共生課(担当:久松・大野)

電話 : 088-821-4842

メール:030701@ken.pref.kochi.lg.jp

(6) 締切

2025年11月14日(金)(定員10名になり次第締切とさせていただきます。)

(7) 保険への加入について

作業実施にあたり傷害保険へ加入します。

(8) 個人情報の取扱いについて

- ・個人情報は希少植物保全作業実施のためにのみ利用いたします。
- ・個人情報は協力機関である津野町と共有させていただきます。
- ・今後同様の保全作業を実施する際、今回ご提供いただいた個人情報をもとにご案内を送らせていただく場合があります。(案内を希望されない場合は申込時にその旨、お伝えください。)

集合場所マップ

★高知方面から197号線を進み、「高野」から「東津野城川林道(東線)」を通るルートが道幅が広く、安心して通行できます。

※48号線は通行止めのため通行できません。



出典：久万高原町まちづくり戦略課発行パンフレット「SHIKOKU KARST -TENKU NO RAKUEN-」